

「香川型イチゴ高設・バッグ式養液栽培システム」におけるピートバッグ内水分動態の解明

山地優徳・牛田 均

香川県農業試験場研究報告 第 57 号 (2005 年 3 月) 19-24

「香川型イチゴ高設・バッグ式養液栽培システム (らくちん)」において、日射量および給液量を変えた場合のピートバッグ内水分動態およびそれに伴うイチゴの生育を調査した。

- 1) 培地含水率は定植から 5 日後まではほぼ相加的に増加していき、それ以後は 87~90%でほぼ一定となった。定植時に根がある部位の培地含水率は初期から高めに推移していた。
- 2) ピートバッグ底部では、定植時に根がある中央部から水分が増加していき、遮光や多給液によってその増加速度が速まった。
- 3) 晴天時にはピートバッグ内水分の停滞がみられなかった。曇天時にはピートバッグ上部での水の動きが鈍くなった。
- 4) 給液量を増加させた場合でも新葉の葉脈間から葉色が低下し生育が遅延するという症状は見られず、生育に違いが見られなかった。
- 5) 以上のことから、「らくちん」では定植初期のピートバッグ内には水分の過不足が無く、ピートバッグ内に停滞水は無いと思われた。また「らくちん」での給液量の増加は、イチゴ「女峰」の生育に影響を与えないと思われた。

キーワード：イチゴ、水分動態、女峰、ピートバッグ